

精神障害者作業所通所者の生活と意識

牧野田恵美子

I. はじめに

近年、精神障害者の入院生活をできるだけ短期にし、地域生活の維持を図ることを目指した諸援助を展開する傾向が強まり、それにともない地域に生活する精神障害者が増えている。しかし社会復帰や社会参加を促進するための場合は、質、量ともに不満足な実情である。このような状況の中にあつてここ数年、精神障害者の作業所数は急速に増加し、地域で日常的に利用できる施設としては、最も多いのが地域作業所（小規模作業所）であろう。

作業所は、今や精神障害者の地域での生活を支える重要な機能を果たしている。作業所の目的や活動内容は、各作業所によりさまざまであるが、そこに通所している人々は、どのような生活を送りどのような意識を持っているだろうか。また、作業所の特長や活動内容によつてどのような違いがあるかを検討し考察した。

II. 地域作業所の全国状況

厚生省の調査によれば、昭和59年11月1日現在、精神障害者の作業所は全国で147ヶ所あり、58年の通所実人員は2,196人であつた。

また、昭和62年に菱山らが行つた全国精神障害者家族連合会（以下全家連と略す）が把握している306ヶ所の精神障害者主体の作業所の調査によれば、精神障害者の作業所は昭和43年に福岡で1ヶ所開所され、昭和40年代に開所された作業所は7ヶ所にすぎなかったが、50年前半には40ヶ所となり50年後半には100ヶ所を越えている。作業内容

は、下請け作業のみが66%で自動車部品や電気部品、紙器加工などの下請け作業が目立っている。自主製品のみを扱っているのは8%で、両方を扱っているのは24%であつたという。

平成1年7月現在、全家連が把握している精神障害者主体の作業所は408ヶ所ある。そのなかで、東京都が最も多く、75ヶ所、次いで神奈川県39ヶ所、北海道の23ヶ所、大阪22ヶ所、新潟20ヶ所と20以上作業所を開所しているのは5都道府県であつた。また、平成2年1月現在では、429ヶ所となっている。

このように、作業所がここ数年急速に増加したのは、地域に生活する精神障害者や家族の、「働きたい」、「昼間過ごす場所が欲しい」、「仲間との語らいや自分の所属する集団が欲しい」という欲求もさることながら、地方自治体の作業所への補助金制度が施行されたことが大きい。作業所の必要性を感じていても、財政的に何の裏づけもないところでは作業所を開設は困難な実情がある。東京都の平成元年の補助金をみると、Aランク（通所者15人以上、指導員3人）の作業所で900万円となつており、区や市独自の補助もあわせると1,000万円を越える。豊島区のある作業所についてみると、区の補助金は人件費409万5千円、家賃104万、行事費30万、光熱費20万、駐車場費14万4千円と計578万あり、都と区をあわせると1,478万となる。家賃が高騰している都市でも、その費用が補助されるなら作業所の財政的問題にふりまわされることは少なくなるであろう。

厚生省も、昭和62年度から家族会が実施する作業所に対し補助をおこなうこととなり、48施設に

対し1施設あたり70万円の補助を行なった。平成2年度は、188ヶ所に対し1施設80万円の予算が計上されている。しかし、この金額は東京都の10分の1以下で、指導員一人の人件費にも満たない。

Ⅲ. 調査の概要

作業所通所者がどのような意識を持ち、作業所にどのような期待を抱いているかを把握すべく、川崎市の作業所3ヶ所、千葉県2ヶ所、計5ヶ所の作業所と通所者94名のうち調査に協力した68名、72.3%に対し、平成1年3月に調査を行なった。対象作業所は、A～Eまでの5ヶ所であり、まず、作業所職員へのアンケートにより作業所の概要を調査した。通所者に対してはグループに内容を説明して回答してもらい、分からないことは個別に説明しなおすという方法をとった。

1. 作業所の概要

A 作業所

- ㉑運営主体：公益法人
- ㉒通所者数：30名
- ㉓補助金：730万円
- ㉔平均年齢：50歳
- ㉕1ヶ月の最高工賃：25,000円
- ㉖職員：常勤2
- ㉗作業内容：下請け作業
- ㉘過去1年の退所者：8名。定員の27%でそのうち5名が家庭復帰である
- ㉙利用者の就労可能者（2～3年を目安にして、条件つきで可能な者を含めて）：7%
- ㉚特長：社会復帰施設のデイケア長期在籍者の受け皿が必要なことを契機として作られ、通所者の多くはデイケア退所者である

㉛開所年：昭和59年

B 作業所

- ㉜運営主体：家族会
- ㉝通所者数：18名

㉞補助金：655万円

㉟平均年齢：40歳

㊱1ヶ月最高工賃：20,000円（これは、毎日のように残業をしている人の例であり平均工賃はそれほど高くない）

㊲職員：常勤1、非常勤1

㊳作業内容：下請け作業と自主製品

㊴過去1年の退所者：7名。定員の37%でそのうち5名が入院している

㊵利用者の就労可能者：22%

㊶特長：保健所ワーカーとソーシャルクラブのメンバーが中心に設立。運営は市の方針で家族会となった。ミーティング、レク、運動を積極的に取り入れ仲間の相互関係が重視されている

㊷開所年：昭和59年

C 作業所

㊸運営主体：家族会

㊹通所者数：12名

㊺補助金：655万円

㊻平均年齢：35歳

㊼1ヶ月最高工賃：4,500円

㊽職員：常勤1、非常勤1

㊾作業内容：自主製品が主体

㊿過去1年の退所者数：3名。定員の16%で家庭復帰が2名

㊱就労可能者：8%

㊲特長：家族会が設立に積極的にかかわり、バザーで資金調達などもしている

㊳開所年：昭和62年

D 作業所

㊴運営主体：市

㊵通所者数：22名

㊶補助金：市営のため年間予算2,400万円

㊷平均年齢：35歳

㊸1ヶ月最高工賃：18,000円

㊹職員：常勤4

- ⑧作業内容：下請け作業
- ⑨過去1年の退所者数：11名。定員の55%で、家庭復帰4名、入院4名、就労（アルバイトを含む）3名
- ⑩就労可能者：59%
- ⑪特長：在籍期間をもうけ、就労させる方針で指導員が積極的に援助している。

⑫開所年：昭和57年

E作業所

⑬運営主体：家族会

⑭通所者数：12名

⑮補助金：86万円

⑯平均年齢：35歳

⑰1ヶ月最高工賃：5,800円

⑱職員：非常勤3（非常勤職員が週3日、家族が週2日分担）

⑲作業内容：下請け作業

⑳過去1年の退所者数：3名。定員の20%で、家庭復帰1名、入院1名、アルバイト1名

㉑就労可能者：57%

㉒特長：病院アイケア終了者の家族が設立、運営し、作業にも参加している

㉓開所年：昭和60年

すべての作業所が週5日開所している。

2. 通所者への調査

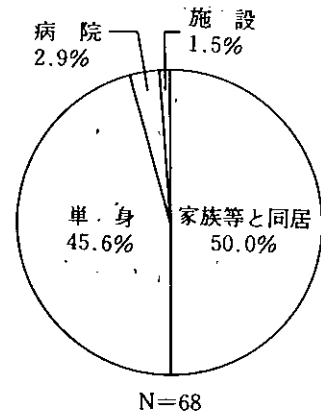
通所者の調査は、作業所別にみると、おおよそA作業所60%、B作業所61%、C作業所83%、D作業所100%、E作業所58%が協力し、計68名から回答を得ることができた。

- ①性別は、男43名、63.2%、女25名、36.8%となっており、C作業所のみ女性が多い。（表1）
- ②年齢は、40代が最も多く、20名、38.2%であり、次いで30代が29.4%であった。A、B、E作業所では、25才以下はいなかった。最年長は66歳で、A作業所に60代が1名いた。最年少は17歳であった。作業所通所者の高年齢化が目立っており、

特にA作業所は40歳以上の者が8割を、E作業所は、7割を超えている。（表2）

③居住形態をみると、家族と同居のものが34名で半数であった。次いで単身が31名、45.6%であった。A、B、E作業所では、単身の方が多く、A作業所12名、66.6%が単身であり、B作業所6名、54.5%、E作業所4名、57.1%と、これらの作業所は半数以上が単身者である。（図1、表3）

図1 居住形態

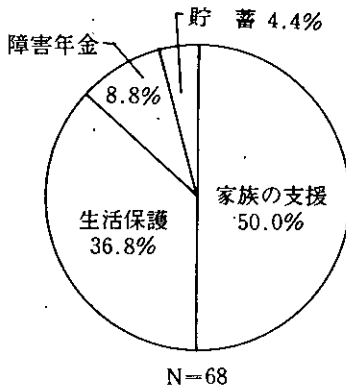


④経済基盤は、家族の支援が33名、50%、生活保護25名、36.8%であった。これは作業所により差が大きく、A作業所では、生活保護が、15名、83.3%で、単身者だけでなく家族と同居しているも、生活保護を受けている者がいる。それに対し、B、E作業所では、単身でも家族の仕送りなど家族の支援を受けている者がいる。

生活保護が生活の基盤となっている者は、B作業所は4名の36.4%。単身者についてみると、単身者6名のうちの4名が生活保護で、2名は家族の支援を受けている。C作業所は、生活保護を受けている者はいない。C作業所の所在地区には、高級住宅地があり、このことが経済基盤に影響し

ているのであろう。D作業所は、生活保護5名、22.7%である。単身者7名のうち4名が生活保護を受けており、2名は家族の支援、1名が貯蓄であった。なお、生活保護を受けている者5名のうち1名は病院に入院中の者である。E作業所は生活保護は1名のみ、14.3%で単身者4名のうち1名しか生活保護を受けていない。その他の者は家族の支援が2名、貯蓄が1名であった。(図2、表4)

図2 経済基盤



⑤ 通所期間は、6ヶ月未満と1年から2年までが同数の16人23.5%である。昭和62年に開設されたC作業所はもちろん2年以上の在籍者はいないが、昭和60年に開設されたE作業所も、2年以上の在籍者がいない。それに反して、A作業所では4年以上が7名、38.8%、B作業所は4名、36.4%おり、他作業所に比べ長期在籍者が目立つ。D作業所のように在籍期限をもうけることもひとつの方法であろうが、就労可能者7%というようなA作業所では、彼らの日中の行き場所を奪うことになる。そこで、就労困難な者など他に場のない人々は長期化し、高齢化していく。(表5)

⑥ 入院の経験がある者は、60名、88.7%であった。

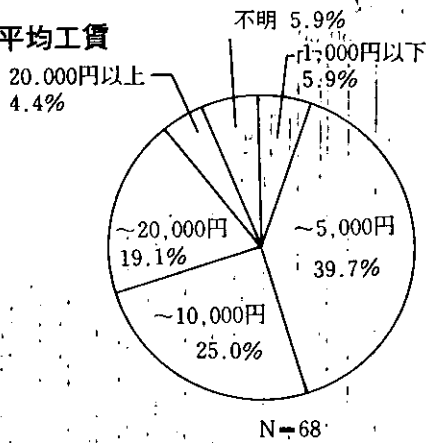
⑦ 作業所通所者の通所前の生活をみると、デイケアが最も多く、27名、39.7%であった。次いで、在宅し、特に役割を持っていなかったもの13名、19.1%。入院していた者11名、16.2%。就労していた者10名、14.7%であった。特に、A、C、E作業所がデイケアの通所者が多く半数を超えている。これは作業所設立の理由と関係しており、何も利用できるものがないため作業所が作られたというより、デイケアのみでは不十分なケアを補完すべく作業所が作られたり、利用されているようである。(表6)

⑧ 作業所への紹介者は、病院や保健所、精神保健センター等のワーカーが31名、45.6%で、次いで家族が10名、14.7%。病院のワーカー8名となっている。医師と保健婦が同数の5名、7.4%で、医師は順位としては4位であった。これらの地域においてはワーカーが彼らの相談や援助への関わりが大きいことを示していると言え、A作業所では8割以上が保健所やセンターのワーカーが紹介している。(表7)

⑨ 作業の平均工賃の月額額は、作業所によってさまざまであるが、全体で見ると、1,001円~5,000円が最も多く27名、39.7%、次いで5,001円~1万円が17名、25%であった。平均すると週4日の通所で6,805円で1ヶ月1万に満たない。作業所別にみるとA作業所では平均15,224円、B作業所3,220円、C作業所1,750円、D作業所9,881円、E作業所6,805円とA作業所が最も高く、C作業所が最も低い。なお、最高は25,000円であった。

このように、作業所に通所しても、その収入は、ほとんど期待できないのが現状である。(図3、表8、表9)

図3 平均工賃

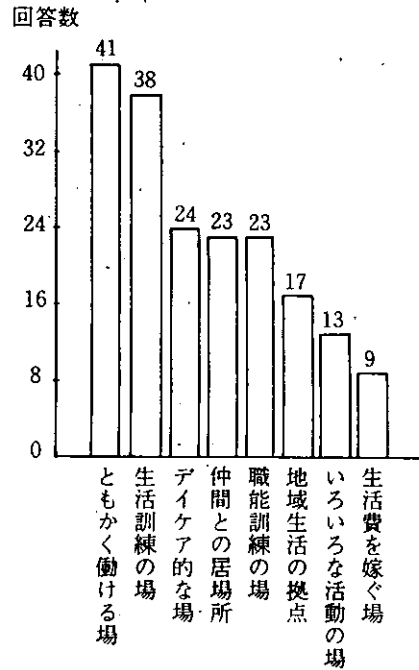


⑩ 彼らが作業所をどのようなところと考えているかをみると、複数回答であるが、「ともかく働ける場」というのが1位で41名で回答数の21.8%、次いで「生活訓練の場」38名、20.3%、「作業を含むデイケア的な場」24名、12.8%、「仲間との居場所」、「職能訓練の場」が同数で23名、12.2%となっている。各作業所の1、2位を比較してみると、A作業所は、全体状況と同じ、B作業所は、生活訓練の場が1位。2位がともかく働ける場と職能訓練の場が同数であった。C作業所は、ともかく働ける場と作業を含むデイケアの場が同数であった。D作業所は、1位生活訓練の場、2位ともかく働ける場であった。E作業所では、ともかく働ける場と職能訓練の場が同数であった。各作業所が、微妙に違っており、これらの違いは、作業所のメンバーや作業所の方針による違いも影響していると思われる。しかし、D作業所は、就労に力点を置いている職員の意向に対し、通所者は職能訓練の場としてとらえている者より生活訓練の場としてとらえている者の方が多かった。

なお、収入の比較的多いA、D作業所のみが生活費を稼ぐ場という回答があったが、全体では、最も少なく9名であった。作業工賃が低く、収入

としては当てにできないが、ともかくも働ける場があることが、彼らが作業所に通っている理由であり、規則正しい生活ができるなどの意義を認めているといえよう。(表10)

図4 作業所はどんな所か(複数回答)



⑪ 職員の役割について彼らがどのように考えているかをみると、複数回答であるが、1位は「作業の指導者」で54名、34.2%、2位が「相談相手」36名、22.8%、3位「作業の提供者」22名、13.9%であった。作業の指導者、相談相手として、作業所職員はその役割を期待されていることが分かる。(表11)

⑫ 作業所以外に利用している機関は、外来が58名、85.3%で他を引き離している。E作業所では全員、A作業所は9割以上が外来に通っている。指導員から言われたり、他の通所者からの影響も大きいのであろうが多数の者が外来には通って

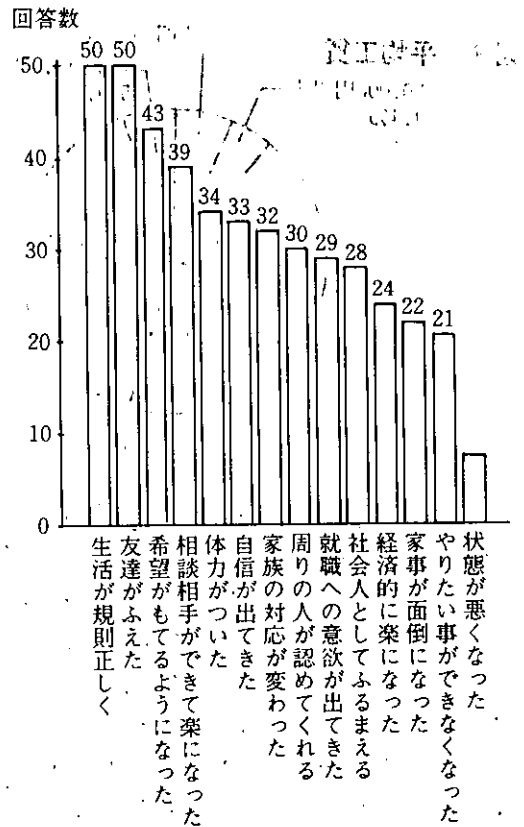
おり、通院の必要性は理解していると言えよう。それに比べて他機関の利用は少なく、保健所デイケアが14名、20.5%、医療デイケアが6名、8.8%となっており、その生活圏の狭さを物語っているようである。(表12、複数回答であるが回答の性格上実人員68で%を計算)

⑬ 作業所通所後の生活の変化をみると、「生活が規則正しくなった」と「友達が増えた」が同数の50名、73.5%であった。3位は「希望が持てるようになった」43名、63.2%、4位が「相談相手ができるようになった」、5位が「体力がついた」、6位「自信が出てきた」、7位「家族の対応が変わった」の順となっている。C、E作業所では、家族の対応が変わったが、約7割と上位なのに対し、単身者の多いA、B作業所は、それぞれ約3割である。E作業所も単身者が5割強いるが、単身でも家族の経済的支援に頼っている者が多いだけ家族との結びつきが強いと思われる。

最も少なかったのが、状態が悪くなった7名。次いで、やりたいことが出来なくなった21名であった。(図5、表13)

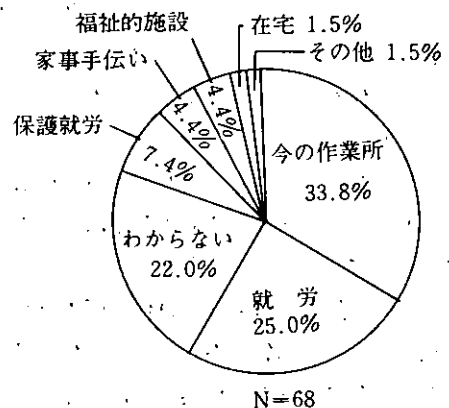
⑭ 1年後はどうしていると思いますかの間に對し、全体では、「今の作業所」が23名、33.8%で第1位であり、次が「就労」で17名、25%であった。3位が「分からない」15名、22%となっている。これは、作業所によつて差が大きい。A作業所では、就労と答えた者はなかった。B作業所では、今の作業所、就労、わからないがともに3名で同数であった。C作業所は、就労は1名で、同数が他に保護就労、家事手伝い、福祉施設と4項目もあった。D作業所は、就労が9名、40.9%。E作業所は4名、57.1%となっており、D、E作業所は、就労への志向と予測が高い。これに對して、A、B、C作業所では、就労を志向あるいは予測している人の割合が少ない。A、B、C作業所がある地域では、就労を目的にしている人は、

図5 通所後の生活の変化(はいの数)



おおむね社会復帰施設に通所し、作業所に通う人で就労を目的にする人は少ないことが影響していると思われる。(図6、表14)

図6 1年後はどうしているか



⑮ 生活する上で気になることは、上位から「将来」、「自立生活」「経済的なこと」「日常生活」、「就職」となっている。(表15)

⑯ 今後、就労する企業についての希望は、「調子が悪い時や、通院で休める」が第1位で、次いで「企業主・同僚の理解」、「雰囲気が良い」となっている。彼らにとって、通院で職場を休めること、調子の悪い時や疲れた時に休めることが働く場合の重要な要素となっていることが分かる。(表16)

⑰ あなたにとって、今、必要なことはどんな事ですかの間に対しては、「体力」が第1位で、次いで、「自信」と「やる気」が同数となっている。第4位が「続けて働くこと」、5位「社会生活」となっている。彼らは、日頃、体力、自信、やる気に欠けることとその必要を自覚していると言えよう。(表17)

⑱ 健康管理についてみると、「通院を忘れない」が56名、82.4%。次いで「服薬を忘れない」が53名、77.9%で7割以上が通院、服薬をしている。「疲れると早目に休むようにしている」は38名、55.9%となっている。

「薬の変更を医師に相談できる」が36名、52.9%と半数以上ができていと答えているがこれは作業所によって差が大きい。E作業所では、その数は1名と低い。「調子が悪いときに相談できる」は、34名、50%で半数のものができていと答えているが、これまたE作業所は、1名と低い。(表18、複数回答であるが母数68で%を計算)

⑲ 身の回りで利用できるものについては、「身近に相談できる専門家」が35名、51.5%、次いで「保健所のデイケア」が27名、39.7%、「友達作りができる集まり」14名、20.6%となっている。身近に利用できるものが少なかったり、あっても情報を得ていないように思われる。(表19、複数回答であるが母数68で%を計算)

3. まとめ
1) 作業所通所者の年齢は高く、40代が4割弱で最も多く、30代が約3割と30~40代が7割弱を占めている。他の調査と比較しても、高年齢化が目立つ。菱山らの調査では、30代が最も多く39.2%で40代が23%であり、昭和62年の神奈川県ボランティアセンターの調査(以下神奈川と略す)³⁾では30代が39.9%、40代が25.1%とこの2調査は似通っている。

このように、年齢高いのは、通所前にデイケアにいた者が約4割を占めており、その長期在籍者や退所後の生活のために作られた作業所があること。作業所入所以後も長期在籍していることが影響していると思われる。

2) 居住形態は、家族と同居している者は5割、単身者4割5分であった。神奈川の調査では、同居79.5%、単身16.5%で、それに比較し単身者が3割近く多い。親を亡くし、都市に住む精神障害者は、この調査のように住宅事情や兄弟の扶養能力は期待できないことなどから今後単身化が進むことが予測される。そしてそれは、徐々に地方にも波及してしていくであろう。

3) 経済基盤は、全体では家族の支援による者5割、生活保護が3割強であるが、A作業所では生活保護が8割強、C作業所ではゼロと居住形態、経済基盤とも作業所により差が著しい。

4) 通所前の生活では、デイケアが4割弱で最も多い。次いで在宅し、特に役割を持っていない者が2割弱となっている。菱山ら調査では、在宅で役割なしがもつとも多く27.9%を占めており、デイケア21.9%であったのに比べ、デイケアに通っていた人が多い。

5) 作業所への紹介者は、保健所や精神保健センターのワーカーが4割強で、病院のワーカーを加えると6割弱を占めており、ワーカーの彼らへのかかわりの大きさが認められる。それに対し、

医師の紹介は1割に満たない。これは、ワーカーと医師の役割分担がうまくいっているということもあるが、地域生活については病院よりも保健所などの機関が援助を行っていることの現われであろう。

6) 作業所の1ヶ月の平均工賃は、全体では6,805円であるが、作業所により、差がいちじるしく、最高25,000円から最低1,000円であった。これは、通所日数によっても差があるが工賃の高い作業を取り入れている作業所か、レクやクラブ活動などの作業以外の活動を重視しているかによっても異なっている。

7) 通所者にとって作業所はどのような所かについては、上位から、「ともかくも働ける場所」、「生活訓練の場」がであり、3位の「作業を含むデイケア的な場」という回答は1、2位に比べ少なくなる。最も少ないのが生活費を稼ぐ場という回答であった。これは、工賃の低さからも当然であろう。彼らは収入は期待できないことを理解しており、あきらめも含めて収入は少なくとも日中働いていることや生活訓練の必要性を認めているのであろう。

⁶⁾ 菱山らの調査では、作業所の活動の中心は何かについての作業所職員の回答では最も多いのが「生活訓練」で全体の76%の作業所がこの項目を選んでおり、次いで「労働の場の確保」の51%であった。職員が精神障害者の日常生活の不規則なことや、生活技術の貧しさなどの改善を図ろうと、生活訓練を活動の中心を置こうとしていることは理解できる。しかし、利用者はむしろ労働の場として作業所を位置づけている。このことは、働くことに価値がおかれる日本の社会の価値観に敏感に反応しているのであろう。

8) 作業所職員の役割りについては、「作業の指導者」が最も多く、次いで「相談相手」となっている。職員は作業のやり方を教えるだけでなく、

悩みごとや何かあった時の相談相手として頼られ、期待されているのである。

9) 通所後の生活の変化については、上位から、「生活が規則正しくなった」と「友達が増えて楽になった」が同数あり、次いで、「希望が持てるようになった」である。生活が規則正しくなり、友達が増え、希望が持てるようになってきた。しかし、将来のことや自立生活のごとについて気になっている。彼らの今後に明るい見通しがあるとは思われず、以前の生活からみれば希望が持てるようになったにしろ、将来のことを考えるとき不安を感じざるを得ないの日々を過ごしているのであろう。

10) 1年後どうしているかについては、「今の作業所」が約3割。次いで「就労」が2割5分、「わからない」が約2割であった。今の作業所にいるであろうと考えている者や、わからない者が半数以上で、今後の社会復帰や他に方策がない人々の居場所になっている現状がわかる。

しかし、この回答は作業所によって大きな差があり、作業所の方針や入所者の置かれている状況によってその見通しが異なることが理解できる項目であった。

11) 健康管理については、「通院を忘れない」と答えた人が約8割、「服薬を忘れない」7割強、「疲れたら早目に休む」5割強と通院や疲労の回復には、気をつけている様子がうかがわれた。

12) 身の回りで利用できるものとして、5割強が身近に相談できる専門家をあげている（これは、作業所以外の専門家である）。このように相談できる専門家がいたり作業所での生活が彼らの地域での生活を維持することに役立っているであろう。

Ⅳ. 地域作業所の今後

作業所は、通所者にとって、ともかく働ける場所、規則正しい生活を送る場、グループ活動の場

となっている。そして、他に適切な場がない人々が日常を過ごす場ともなっている。また、作業所によっては、今後の社会復帰や方策を考えることが出来ない、いくなれば今後の見通しが立てられない人々の居場所ともなっている。一方、就労を目指す人もおり、作業所は種々かつ多様な目的を持った人々が通所している。

従って、作業所はいろいろな役割を担わなければならない。就労希望者のためのプログラム、生活訓練のためのプログラムなど多様な活動プログラムを用意しなければならない現状にある。しかし、それだけのマンパワーを充たすことは財政的に困難である。また、今後の方策を考えられない人々の長期化、高齢化が問題になってくる。作業所としては、ここ以外行く場がない人々のことを考えると長期化もやもう得ないとすると、新しく通所を希望する人を受け入れられなくなる。それらの人々の在籍期間を制限すれば、その間になんとか改善された規則的生活や他人との交流が閉ざされてしまうなど多くの問題を抱えている。

他に多くの社会資源が不足している為に、多様な期待が寄せられる作業所は、財政基盤が脆弱で、人的にも物的にも不備で、それに答えることは至難の業である。作業所の活動を支えているのは職

員や家族、ボランティアのエネルギーや熱意だけというのでは、作業所の活動は息切れしてしまう。このような現状からみて、

1. 精神障害者作業所への補助金の充実、特に国の補助金額を引き上げ
2. 保健所をはじめとする公的関係機関のサポートと連携
3. 高齢者や単身者やその予備軍のための共同住居や生活維持のための援助
など地域生活をサポートする施策の多様化と充実が図られねばならないであろう。

この論文は、昭和63年の厚生科学研究としておこなった「小規模作業所等の利用者に関する継続的研究」の調査の一部を分担したのでそれを分析した。また、作業所通所者の回答だけでなく、彼らの生活については、さまざまな機会をとらえて把握し、意見を聞いたものをまとめて含めた。厚生科学研究分担研究者の日本社会事業大学教授岡上和雄三先生はじめ研究協力者のメンバーの方々、資料を提供下さった国立精神神経センター精神保健研究所松永宏子氏に感謝申し上げます。

(まきのだ えみこ)

精神障害者作業所調査

表1 性別

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	11	61.1	7	63.6	3	30.0	16	72.7	6	85.7	43	63.2
女	7	38.8	4	36.4	7	70.0	6	27.3	1	14.3	25	36.8
計	18	99.9	11	100.0	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0

表2 年齢

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
20 未満	0	0	0	0	1	10.0	4	18.2	0	0	5	7.4
20 ~	1	5.6	1	9.1	3	30.0	4	18.2	0	0	9	13.2
30 ~	2	11.1	5	45.5	2	20.0	9	40.9	2	28.6	20	29.4
40 ~	11	61.1	4	36.4	3	30.0	4	18.2	4	57.1	26	38.2
50 ~	4	22.2	1	9.1	1	10.0	1	4.5	1	14.3	8	11.8
計	18	100.0	11	100.1	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0

60代 1名、最年長 66才、最年少 17才

表3 居住形態

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
家族	5	27.7	5	45.5	8	80.0	13	59.1	3	42.9	34	50.0
単身	12	66.6	6	54.5	2	20.0	7	31.8	4	57.1	31	45.6
病院	0	0	0	0	0	0	2	9.1	0	0	2	2.9
施設	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.5
計	18	99.9	11	100.0	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0

表4 経済基盤

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
家族の支援	2	11.1	7	63.6	7	70.0	13	59.1	5	71.4	34	50.0
生活保護	15	83.3	4	36.4	0	0	5	22.7	1	14.3	25	36.8
年金	0	0	0	0	3	30.0	3	13.6	0	0	6	8.8
貯蓄	1	5.6	0	0	0	0	1	4.5	1	14.3	3	4.4
作業工賃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	18	100.0	11	100.0	10	100.0	22	99.9	7	100.0	68	100.0

表5 通所期間

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
~ 6ヶ月	1	5.6	3	27.2	2	20.0	9	40.9	1	14.3	16	23.5
~ 1年	1	5.6	0	0	3	30.0	4	18.2	5	71.4	13	19.1
~ 2年	5	27.7	3	27.2	5	50.0	2	9.1	1	14.3	16	23.5
~ 3年	1	5.6	1	9.1	0	0	5	22.7	0	0	7	10.3
3年 ~ 4年	3	16.7	0	0	0	0	1	4.5	0	0	4	5.9
4年以上	7	38.8	4	36.4	0	0	1	4.5	0	0	12	17.7
計	18	100.0	11	99.9	10	100.0	22	99.9	7	100.0	68	100.0

表6 通所前の生活

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
ディケアー	12	66.6	1	9.1	7	70.0	3	13.6	4	57.1	27	39.7
在宅	1	5.6	3	27.2	2	20.0	4	18.2	3	42.9	13	19.1
入院	2	11.1	0	0	0	0	9	40.9	0	0	11	16.2
就労	3	16.7	3	27.2	1	10.0	3	13.6	0	0	10	14.7
家事手伝い	0	0	2	18.2	0	0	3	13.6	0	0	5	7.4
施設	0	0	1	9.1	0	0	0	0	0	0	1	1.5
その他	0	0	1	9.1	0	0	0	0	0	0	1	1.5
計	18	100.0	11	99.9	10	100.0	22	99.9	7	100.0	68	100.1

表7 作業所への紹介者(上位6位まで)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
保健所、センター のワーカー	15	83.3	4	36.4	7	70.0	2	9.1	3	42.9	31	45.6
家族	0	0	2	18.2	1	10.0	4	18.2	3	42.9	10	14.7
病院ワーカー	1	5.6	1	9.1	0	0	5	22.7	1	14.3	8	11.8
医師	0	0	1	9.1	1	10.0	3	13.6	0	0	5	7.4
保健婦	2	11.1	0	0	0	0	3	13.6	0	0	5	7.4
福祉事務所	0	0	0	0	1	10.0	2	9.1	0	0	3	4.4

表8 平均工賃

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1000円以下	0	0	0	0	4	40.0	0	0	0	0	4	5.9
~5000円	1	5.6	10	90.9	5	50.0	6	27.3	5	71.4	27	39.7
~10000円	3	16.7	1	9.1	0	0	12	54.6	1	14.3	17	25.0
~20000円	10	55.4	0	0	0	0	3	13.6	0	0	13	19.1
~20000円以上	3	16.7	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4.4
不明	1	5.6	0	0	1	10.0	1	4.5	1	14.3	4	5.9
計	18	100.0	11	100.0	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0
平均	15,224円		3,220円		1,750円		9,881円		3,950円		6,805円	

表9 通所回数 (週平均)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1 日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14.3	1	1.5
2 日	3	16.7	2	18.2	0	0	2	9.1	0	0	7	10.3
3 日	0	0	4	36.4	2	20.0	1	4.5	1	14.3	8	11.8
4 日	2	11.1	3	27.2	3	30.0	8	36.4	1	14.3	17	25.0
5 日	13	72.2	2	18.2	5	50.0	11	50.0	4	57.1	35	51.4
計	18	100.0	11	100.0	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0
平均	4.4日		3.5日		4.3日		4.3日		3.5日		4.0日	

表10 作業所はどのような所か (複数回答)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
ともかく働ける場	14	29.8	5	16.1	6	24.0	11	16.7	5	26.3	41	21.8
生活訓練の場	8	17.0	8	25.8	5	20.0	13	19.7	4	21.1	38	20.3
ダイケア的な場	5	10.6	4	12.9	6	24.0	7	10.6	2	10.5	24	12.8
仲間との居場所	4	8.6	4	12.9	5	20.0	9	13.6	1	5.3	23	12.2
職能訓練の場	3	6.4	5	16.1	1	4.0	9	13.6	5	26.3	23	12.2
地域生活の拠点	5	10.6	3	9.7	1	4.0	6	9.1	2	10.5	17	9.0
いろいろな活動の場	3	6.4	2	6.5	1	4.0	7	10.6	0	0	13	6.9
生活費を稼ぐ場	5	10.6	0	0	0	0	4	6.1	0	0	9	4.8
計	47	100.0	31	100.0	25	100.0	66	100.0	19	100.0	188	100.0

表11 職員の役割について (複数回答)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
作業の指導者	12	36.6	8	32.0	8	27.6	21	36.2	5	38.4	54	34.2
相談相手	2	6.0	7	28.0	8	27.6	16	27.6	3	23.1	36	22.8
作業の提供者	6	18.2	3	12.0	3	10.3	10	17.2	0	0	22	13.9
仲間	5	15.1	3	12.0	3	10.3	3	5.2	1	7.7	15	9.5
上司	4	12.1	2	8.0	2	6.9	2	3.5	2	15.4	12	7.6
運営者	2	6.0	1	4.0	2	6.9	4	6.8	1	7.7	10	6.3
友人	2	6.0	1	4.0	3	10.3	2	3.5	1	7.7	9	5.7
計	33	100.0	25	100.0	29	99.9	58	100.0	13	100.0	158	100.0

表12 作業所以外に利用している機関 (複数回答 %の母数 68)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
外来	17	94.4	10	90.9	8	80.0	16	72.7	7	100.0	58	85.3
保健所デイケア	1	5.6	3	27.2	0	0	10	45.5	0	0	14	20.5
医療デイケア	2	11.1	0	0	2	20.0	0	0	2	28.6	6	8.8
精神保健センター	3	16.7	1	9.1	0	0	1	4.5	0	0	5	7.4
ソーシャルクラブ	1	5.6	1	10.0	1	10.0	0	0	0	0	3	4.4
福祉施設	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.5
カルチャーセンター	0	0	0	0	0	0	1	4.5	0	0	1	1.5
その他	0	0	0	0	2	20.0	3	13.6	0	0	5	7.4

その他——病院のレク、日曜クラブ

表13 通所後の生活の変化 (はいの数 上位7位まで)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
生活が規則正しく	11	61.1	9	81.8	9	90.0	15	68.2	6	85.7	50	73.5
友達がふえた	13	72.2	10	90.9	7	70.0	16	72.7	4	57.1	50	73.5
希望がもてるようになった	11	61.1	7	63.6	5	50.0	15	68.2	5	71.4	43	63.2
相談相手ができて楽になった	7	38.8	9	81.8	6	60.0	14	63.6	3	42.9	39	57.4
体力がついた	11	61.1	4	36.6	5	50.0	10	45.5	4	57.1	34	50.0
自信が出た	8	44.4	7	63.6	5	50.0	9	40.9	4	57.1	33	48.5
家族の対応が変わった	6	33.3	4	36.4	7	70.0	10	45.5	5	71.4	32	47.1

表14 1年後はどうしているか?

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
今の作業所	8	44.4	3	27.2	4	40.0	6	27.3	2	28.6	23	33.8
就労	0	0	3	27.2	1	10.0	9	40.9	4	57.1	17	25.0
わからない	8	44.4	3	27.2	2	20.0	2	9.1	0	0	15	22.0
保護就労	0	0	1	9.1	1	10.0	2	9.1	1	14.3	5	7.4
家事手伝い	0	0	1	9.1	1	10.0	1	4.5	0	0	3	4.4
福祉的施設	0	0	0	0	1	10.0	2	9.1	0	0	3	4.4
在宅	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.5
その他	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.5
計	18	100.0	11	99.8	10	100.0	22	100.0	7	100.0	68	100.0

表15 生活する上で気になること (複数回答 上位5位まで、N=217)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
将来	10	22.2	5	17.3	4	14.8	12	12.5	3	15.0	34	15.7
自立生活	4	8.9	6	20.8	3	11.1	12	12.5	4	20.0	29	13.4
経済的なこと	8	17.8	3	10.3	4	14.8	11	11.5	3	15.0	29	13.4
日常生活	8	17.8	4	13.8	2	7.4	11	11.5	3	15.0	28	12.9
就職	4	8.9	4	13.8	3	11.1	12	12.5	4	20.0	27	12.4

表16 今後就労する企業に対する希望 (複数回答 上位5位まで、N=190)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
休める	9	20.5	4	14.3	4	16.0	15	21.8	5	20.8	37	19.5
企業主の理解	7	15.9	3	10.7	4	16.0	9	13.0	5	20.8	28	14.7
雰囲気が良い	6	13.6	3	10.7	4	16.0	11	15.9	3	12.5	27	14.2
労働環境	8	18.2	3	10.7	5	20.0	7	10.1	3	12.5	26	13.7
話せる同僚	3	6.8	3	10.7	3	12.0	13	18.9	3	12.5	25	13.2

表17 あなたにとって必要なことは? (複数回答 上位5位まで N=286)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
体力	14	20.3	6	14.6	5	11.6	9	8.6	6	21.4	40	14.0
自信	9	13.0	4	9.8	7	16.3	13	12.4	6	21.4	39	13.6
やる気	10	14.5	5	12.2	6	13.9	14	13.3	4	14.3	39	13.6
続けて働くこと	7	10.1	8	19.5	4	9.3	12	11.4	5	17.9	36	12.6
社会生活	6	8.7	4	9.8	4	9.3	13	12.4	3	10.7	30	10.5

表18 健康管理について (複数回答 %の母数 68)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
通院忘れない	17	94.4	10	90.9	9	90.0	15	68.2	5	71.4	56	82.4
服薬忘れない	17	94.4	10	90.9	7	70.0	14	63.6	5	71.4	53	77.9
疲れたら休む	9	50.0	6	54.5	4	40.0	15	68.2	4	57.1	38	55.9
薬の変更相談できる	10	55.4	10	90.9	5	50.0	10	45.5	1	14.3	36	52.9
調子の悪いと相談できる	7	38.8	8	72.7	3	30.0	15	68.2	1	14.3	34	50.0

表19 身の回りで利用できるもの (複数回答 %の母数 68)

	A		B		C		D		E		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
専 門 家	10	55.4	5	45.5	3	30.0	14	63.6	3	42.9	35	51.5
保健所デイケア	4	22.2	6	54.5	5	50.0	9	40.9	3	42.9	27	39.7
友達つくれる集ま	3	16.7	6	54.5	2	20.0	2	9.1	1	14.3	14	20.6
短期宿泊施設	6	33.3	3	27.2	0	0	0	0	0	0	9	13.2
夜の集まり	3	16.7	1	9.1	0	0	1	4.5	1	14.3	6	8.8
共同住居	4	22.2	0	0	0	0	1	4.5	1	14.3	6	8.8

引用文献

- 1). 2). 5). 6). 菱山珠夫他：精神障害者が利用する作業所の実情と活動のあり方に関する調査研究、昭和61年度厚生科学研究報告書、全家連、昭和1987年3月
- 3). 4). 神奈川県社会福祉協議会：神奈川県ボランティア・センター、精神障害者地域作業所通所者の日常生活、1989年3月

参考文献

- 蜂矢英彦、岡上和雄編：精神保健実践講座3 精神保健とリハビリテーション活動、中央法規出版、1989年11月
- 厚生省保健医療局精神保健課：我が国の精神保健 平成元年度版、厚生出版株式会社
- 共同作業所全国連絡会編：ひろがれ共同作業所、ぶどう社、1987年6月
- 蜂矢英彦、村田俊男編：精神障害者の地域リハビリテーション、医学書院、1989年6月